

中山家庭園

(なかやまけていえん)



【所在】

鷹栖町 13 線 8 号

【指定年度】

昭和 6 3 年

【標柱建立】

平成元年

オサラッペ川の古川を利用

明治 27 年、団体入植の先鞭として山梨県団体が移住した。

団体長は平田寛康であったが、今の旭川市近くに入植、早く引き上げたので、この地に入った団体長は中山照重であった。中山は山梨県にあって 3 カ所の山にトンネルを掘削した経験があり、入植してもいち早く石狩川より導水して灌漑溝を設け、水田経営の基礎を築き、鷹栖土功組合を設立して、他に類を見ない民間団体によるオサラッペ川改修工事を成し遂げ、また、率先して馬やプラオを買い求め、開拓を進めた偉大な村政の功労者である。

この庭園は、オサラッペ川改修の折、今まで蛇行していた川を直通にしたので、この古川を利用して大正 12 年に庭を作った。オサラッペ川改修による古川は、代々地先の名を取り数多く昭和の中期まで残っていたが、昭和 45 年の道立圃場整備事業で姿を消し、今は中山家庭園のみとなった。

この庭には、原始以来の夕モの大木が残されており、また、二代目国治が植えた石楠花の幼木も今は町内一の大木となり、毎年美事な花を咲かせている。

しかし、時代の流れとともにその姿は変わりつつあり、現在はわずかに庭園の面影と古池の跡が分かる程度となっている。